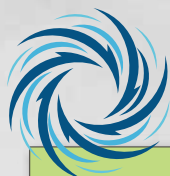




伊勢湾台風から 65 年

～災害対応・復旧記録資料の
調査分析と検証から～

2024
9.19(木)～
12.21(土)



我が国における近代最悪の風水害である伊勢湾台風は、低気圧と強風による最大級の高潮に加え、豪雨による大規模洪水も伴って多くの地域で海岸・河川堤防を決壊させました。伊勢湾沿岸地域の堤防決壊は 255 地区、36,800 m にも及び、広大な海拔ゼロメートル地帯を抱える濃尾平野では、浸水が長期化して過酷な生活を余儀なくされました。

あれから 65 年、気候変動に伴って風水害が激化し、内湾に面した沿岸地域では特に、巨大台風の襲来に伴う大規模水害が懸念されています。当時の壊滅的な浸水被害からいかに脱したのかなど、伊勢湾台風は将来に向けた備えを進める上で、多くの教訓を含んでいます。

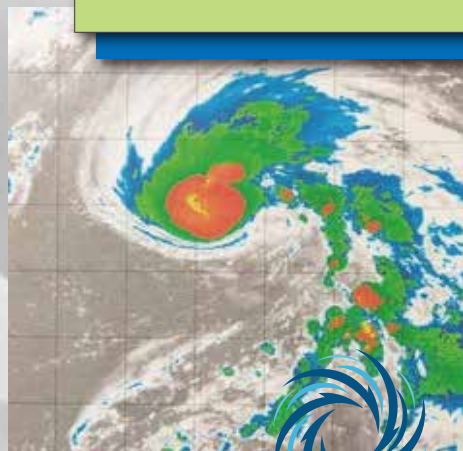
名古屋大学減災連携研究センターでは、伊勢湾台風の詳細な記録資料を発掘・収集し、GIS などを用いた最新の調査研究に取り組んでいます。

この企画展では、改めて浮き彫りになった重要な事実、新たな知見を皆さんと共有し、迫りくるスーパー伊勢湾台風に対し、共に備えていきたいと思ひます。

監修：田代 喬、倉田和己、荒木裕子

スペシャルギャラリートーク

- ①9.25(水)：倉田和己
「地図と新聞記事を通じた伊勢湾台風の追体験」
 - ②9.26(木)：田代 喬
「災害対応・復旧記録資料の調査分析と検証」
 - ③10.5(土)：富田孝史
「高潮災害とそれに対する備え」
 - ④11.2(土)：荒木裕子
「伊勢湾台風・大規模浸水による避難の様相」
 - ⑤12.7(土)：田代 喬
「伊勢湾台風災害からの応急復旧を記録資料からひもとく」
- 時間：いずれも 13：30 ～
■場所：減災館 ①③④はホール、②⑤は 2 階展示エリア



米国国立公文書館で見つかった航空写真が語る伊勢湾台風被害の全貌
(3 m×6 m の巨大地図。一般財団法人日本地図センター制作・提供、減災館所蔵。)



減災館

Disaster Mitigation Research Building

名古屋大学減災連携研究センター

9.26(木)のスペシャルギャラリートーク
では、展示内容をご紹介します

〒464-8601 名古屋市中種区不老町 Tel: 052-789-3468 Fax 052-789-5023
開館時間：13:00-16:00 休館日：日祝・月・火曜日、最終土曜日
※天候、行事等の諸事情により上記以外でも急遽休館になる場合がございます。
※最新の情報は HP にてご確認ください。
<http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/>



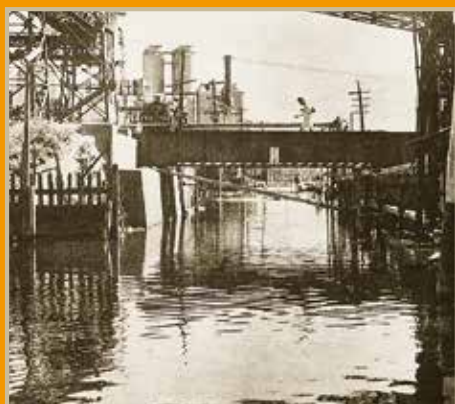
第 36 回特別企画展 伊勢湾台風から 65 年

～災害対応・復旧記録資料の調査分析と検証から～

2024

9.19(木)～

12.21(土)



伊勢湾台風により被災した金川製造所・港明製造所
(東邦ガス提供)

「みなとアクルス」(名古屋市港区港明)が整備された地区は、かつて熱田前新田と呼ばれ、1937年の「名古屋汎太平洋平和博覧会」の会場として使われました。

その後、1939年のガス工場・熱田供給所の完成以降、改称をしながら1998年に廃止されるまで、都市ガスの製造・供給拠点として機能していました。

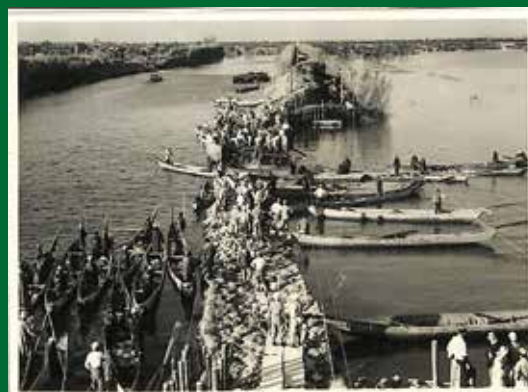
伊勢湾台風襲来時、湛水期間は3～4週間に及び状況に陥りながら、停電回復を機に迅速な復旧が進められ製造・供給を再開しました。

2014年、東邦ガスが「人と環境と地域のつながりを育む」をコンセプトとする都市計画案を名古屋市に提出したことを受け、2015年の都市計画決定、開発許可を契機に新たな開発が進められ、2018年9月にはスマートタウン「みなとアクルス」として商業施設、公共施設が開業し、2020年5月からは集合住宅への入居が開始され、現在に至っています。



日光川の河口付近において左岸側に注ぐ支川・東小川(写真左側)では、かつての干拓のために築かれた左岸堤防が決壊し、堤内地の藤高新田(写真右側、名古屋市港区藤高)は、約2ヶ月にも及び長期浸水に見舞われました。

道路の冠水・決壊等により資材の陸上運送が不可能な中、小型舟艇による海上輸送に頼らざるを得なかったため、発災後の仮締切工事は、河川・浸水域両側から多数の小舟によって運搬された資材をもとに、学生・一般市民を含む延べ4,000名以上による人海戦術で行われましたが、締切完了までに約1ヶ月を要しました。



堤防決壊した日光川水系東小川左岸の仮締切工事
(名古屋市土木局撮影、名古屋大学所蔵)



仮締切工事に携わった市民による作業の様子
(高浜市提供)

知多半島の東側の付け根、衣浦湾に注ぐ境川右岸に面した高浜市(当時高浜町)では、伊勢湾台風襲来に伴い、死者4名、家屋全壊196棟、床上浸水294棟、床下浸水931棟の被害とともに、27カ所もの堤防決壊が生じました。(流木被害が顕著だった名古屋市南区に準じ)当地でも沿岸域にかつてあった貯木場に係留されていた木材が、高潮・高波によって押し上げられた潮流に乗って流木として襲来し、家屋・工場等の損壊を引き起こしました。

写真は、石のう、土のうなどの資材確認の様子を写したのですが、学生も含め多数の市民が町を挙げた決壊堤防の仮締切工事に従事しました。

